

ブラジル日本商工会議所
第3回フォーラム

「2022年上期回顧と今後の展望」



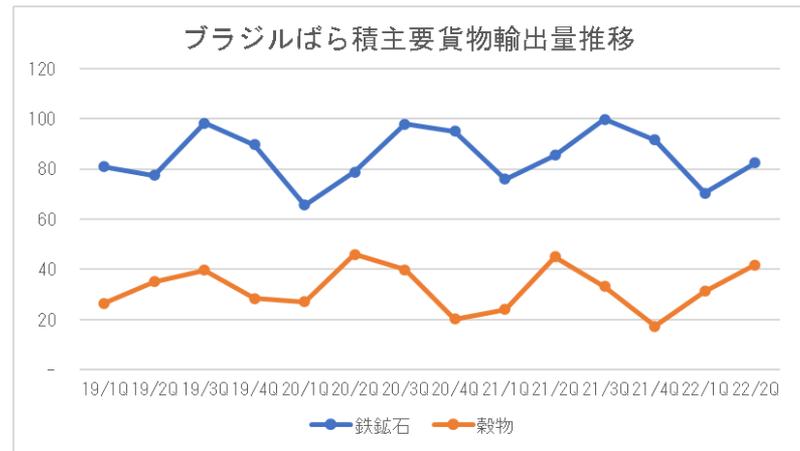
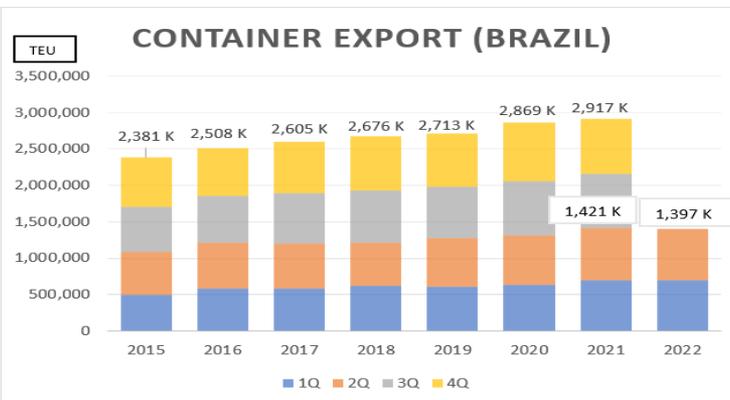
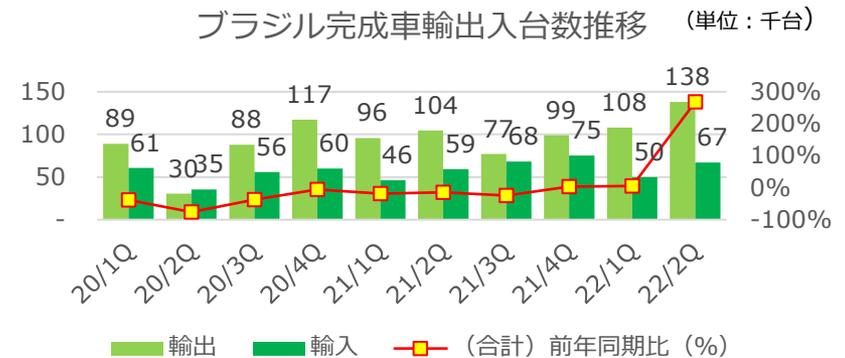
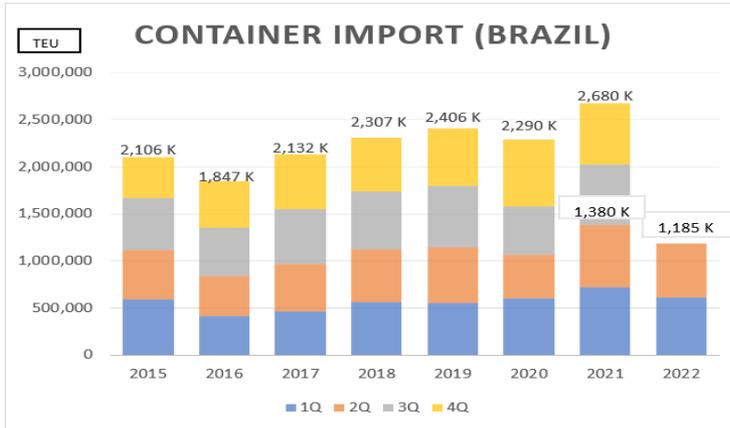
運輸サービス部会
2022年8月31日



海運

2022年上期回顧

- ◆ ブラジルの上期コンテナ数量は、輸出入共に過去7年で最大であった昨年比較で減少に転じた。前年同期比で輸入が▲15%、輸出が▲2%の減。世界主要港の混雑、本船遅延に若干の改善はみられたものの、コロナ対策による中国のロックダウンにより再度悪化するなど状況は一進一退となった。中国ロックダウン期間中は、工場生産やトラック輸送が出来ず貨物量は一時減ったが、6月のロックダウン解除後は、在庫出荷も有り、貨物量も急激に増え、再びスペースタイトな状況となった。輸出も主要貨物である木材・食肉の出荷が引き続き強く、スペースタイト状況が続いた。
- ◆ 2022年上期のブラジル自動車輸入は前年同期との比較では11%の増加、輸出は23%の増。世界的に自動車・建機などの需要が回復し、自動車専用船舶腹はタイトな状況が継続。
- ◆ ドライバルク貨物の輸出の主要品目である鉄鉱石は前年同期比微減（▲5%）、穀物はほぼ前年並み。主要輸出先である中国でコロナへのロックダウン対応が行われた影響もあり。





海運

今後の展望

- ◆ 下期のコンテナ輸送については、クリスマス商戦に向けた出荷が旺盛で引き続き貨物量は強い見通し。しかしながら各国における急激なインフレ、利上げが続いており、消費マインドの弱含みの可能性が懸念される。また7月に失効し目下交渉中である北米西岸港湾労使交渉の行方、中国のコロナ対策、ロシア・ウクライナ情勢など不安定要素が多く、不透明な状況が続く見通し。
- ◆ コロナ禍からの経済回復と共に自動車需要が回復。これに伴い完成車輸送需要も増加しており、自動車船船腹の不足傾向も継続する。
- ◆ ドライバルク輸送は、中国でのロックダウン解除に伴い需要が回復する事が予想される。但し、世界的な景気減速懸念もあり、今後の需給状況には不透明感がある。

海運業界としての脱炭素化への取組

- ◆ 国際海事機関(IMO)にて採決された2050年迄のGHG排出量50%削減目標に向けてのアクション。
- ◆ 次世代燃料への切替
 - 従来 主に重油を使用。
 - 将来 先ずはLNG燃料への切替によりCO2排出量の低減を図る(重油比25~30%低減)。
更に水素・アンモニア・メタノール等の代替燃料の使用により排出量の抜本的改善(ゼロエミッション化)を目指す。
- ◆ CO2回収
 - 船舶エンジンから排出されるCO2を回収・貯蔵する船用機器の開発。
- ◆ 水素・アンモニア燃料の海上輸送
 - 水素・アンモニア燃料の生産地から消費地に向けた海上輸送技術の開発・実証。社会全体での次世代燃料使用へのインフラ整備。
- ◆ CO2の海上輸送
 - 排出地にて回収・貯蔵されたCO2を埋蔵拠点(CCUS)まで海上輸送する技術の開発・実証。



航空貨物

2022年度上期回顧

【世界のトレンド】

- 1, 航空貨物需要は昨年と比較し減少傾向
- 2, オミクロン株蔓延、労働力不足、ウクライナ危機による供給量減
ラテンアメリカ高成長
欧州、アジア地域は、ウクライナ危機の影響大
- 3, 航空貨物マーケットへの影響
 - ・空港ターミナル混雑/フライトキャンセル/ストライキ

【ブラジルのトレンド】

- 1, 輸出・輸入とも2021年を上回る貨物量（GRU+VCP）別表
- 2, 貨物輸送能力が徐々に回復

【燃料費動向】

- 1, 2022年に入り大幅上昇

今後の展望

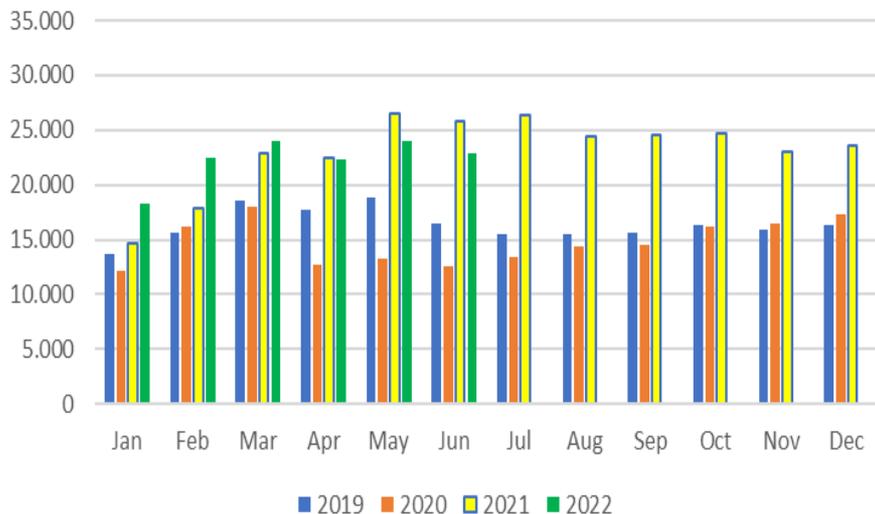
- ・ 消費者物価の上昇は消費者購買意欲にインパクトを与え結果的に航空貨物の需要に影響を与える可能性がある
- ・ ロシア・ウクライナ情勢
- ・ 原油価格推移
- ・ 米国西岸労使交渉推移、各地港湾ストライキ・混雑の影響



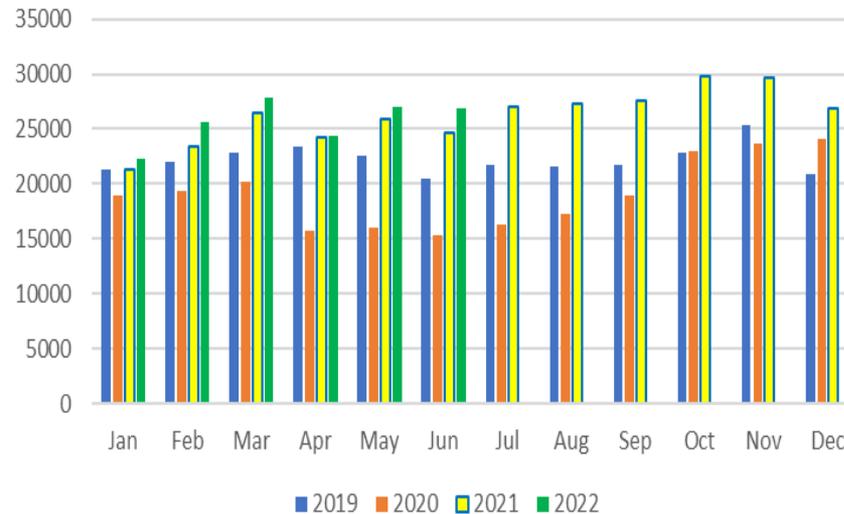
<GRU & VCP空港 航空貨物輸出入取扱数量 単位トン>

航空貨物

Air Export volume trend (GRU+VCP)
2019 - 2022



Air Import volume trend (GRU+VCP)
2019 - 2022



2022 vs 2021 (累計(Jan-Jun))
+3,0%

2022 vs 2021 (累計(Jan-Jun))
+5,6%

(数値出典元 : GRU AIRPORT CARGO, VCP AEROPORT ,INFRAEO CARGO)

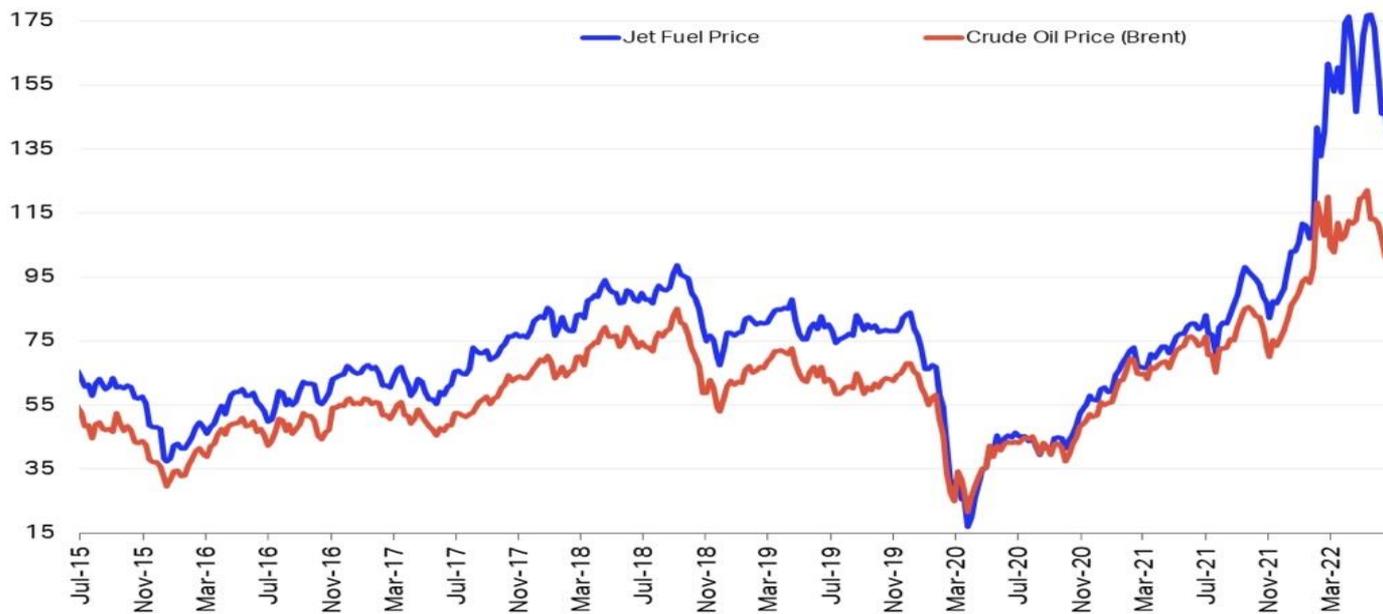


航空貨物

<ジェット燃料/原油価格推移(青:JET燃料)>

Jet fuel price developments - longer term perspective

Jet Fuel & Crude Oil Price (\$/barrel)



Source: S&P Global, Refinitiv Eikon



航空貨物

2022年度上期回顧

【世界のトレンド】

- 1, 航空貨物需要は昨年と比較し減少傾向
- 2, オミクロン株蔓延、労働力不足、ウクライナ危機による供給量減
ラテンアメリカ高成長
欧州、アジア地域は、ウクライナ危機の影響大
- 3, 航空貨物マーケットへの影響
 - ・空港ターミナル混雑/フライトキャンセル/ストライキ

【ブラジルのトレンド】

- 1, 輸出・輸入とも2021年を上回る貨物量（GRU+VCP）別表
- 2, 貨物輸送能力が徐々に回復

【燃料費動向】

- 1, 2022年に入り大幅上昇

今後の展望

- ・ 消費者物価の上昇は消費者購買意欲にインパクトを与え結果的に航空貨物の需要に影響を与える可能性がある
- ・ ロシア・ウクライナ情勢
- ・ 原油価格推移
- ・ 米国西岸労使交渉推移、各地港湾ストライキ・混雑の影響



その他 物流関係

2022年度上期回顧

- ・ 税関の順法闘争の影響継続（2021年12月～）
- ・ MAPA（農務省）の手続き遅延（2022年3月）
- ・ 工業生産促進を図る対策＝「Ex-Tarifario」手続き緩和
- ・ DU-IMP（新税関システム）導入の先送り
- ・ E-Commerce関連ビジネスの躍進、倉庫需要堅調
- ・ ガソリン等燃料費の調整

今後の展望

- ・ 税関順法闘争の推移は引き続き注視が必要
- ・ DU-IMP機能の一部であるカタログ化手続きの一部が公表予定
- ・ 大統領選の結果次第では、輸入税、その他諸税の税率下方修正
- ・ トラックーストライキ懸念



旅行・ホテル 航空旅客 レンタカー

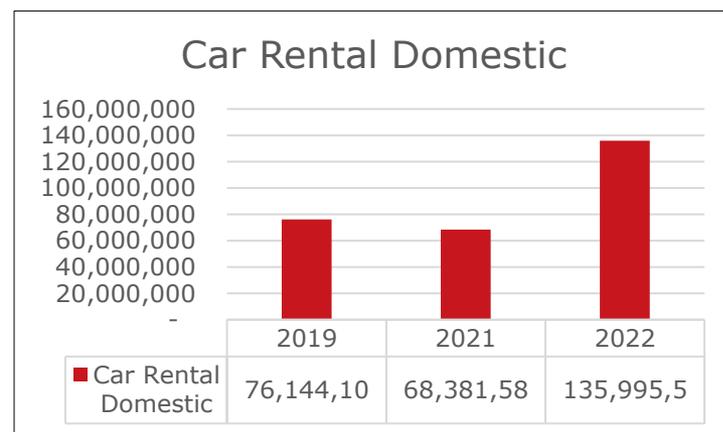
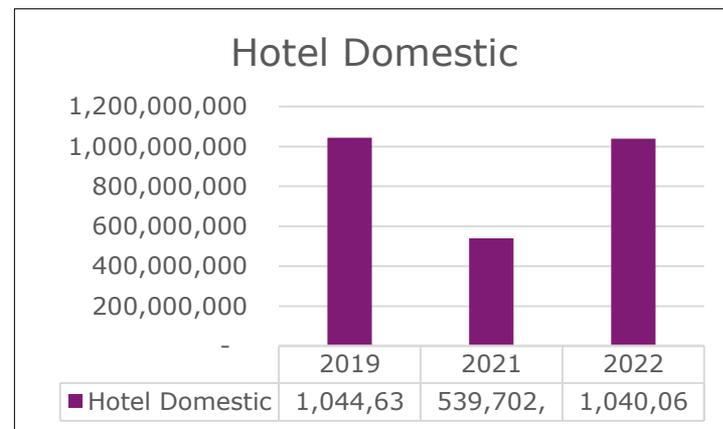
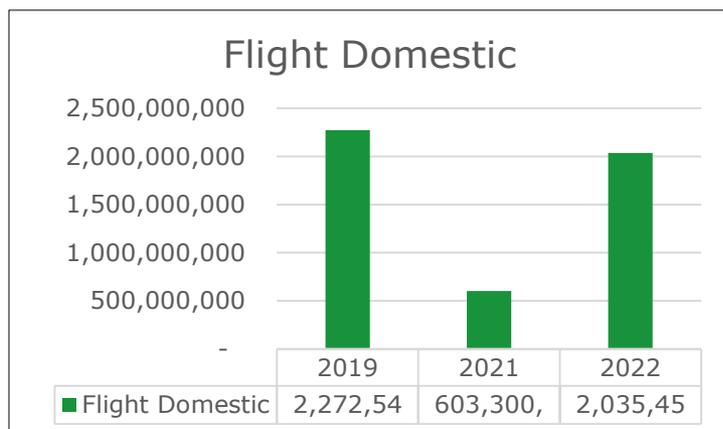
2022年度上期回顧

ブラジル国内旅行市場（売上）

2022年上期は2019年上期レベルに戻り始めた

Total Sales in Half Year

Currency: BRL

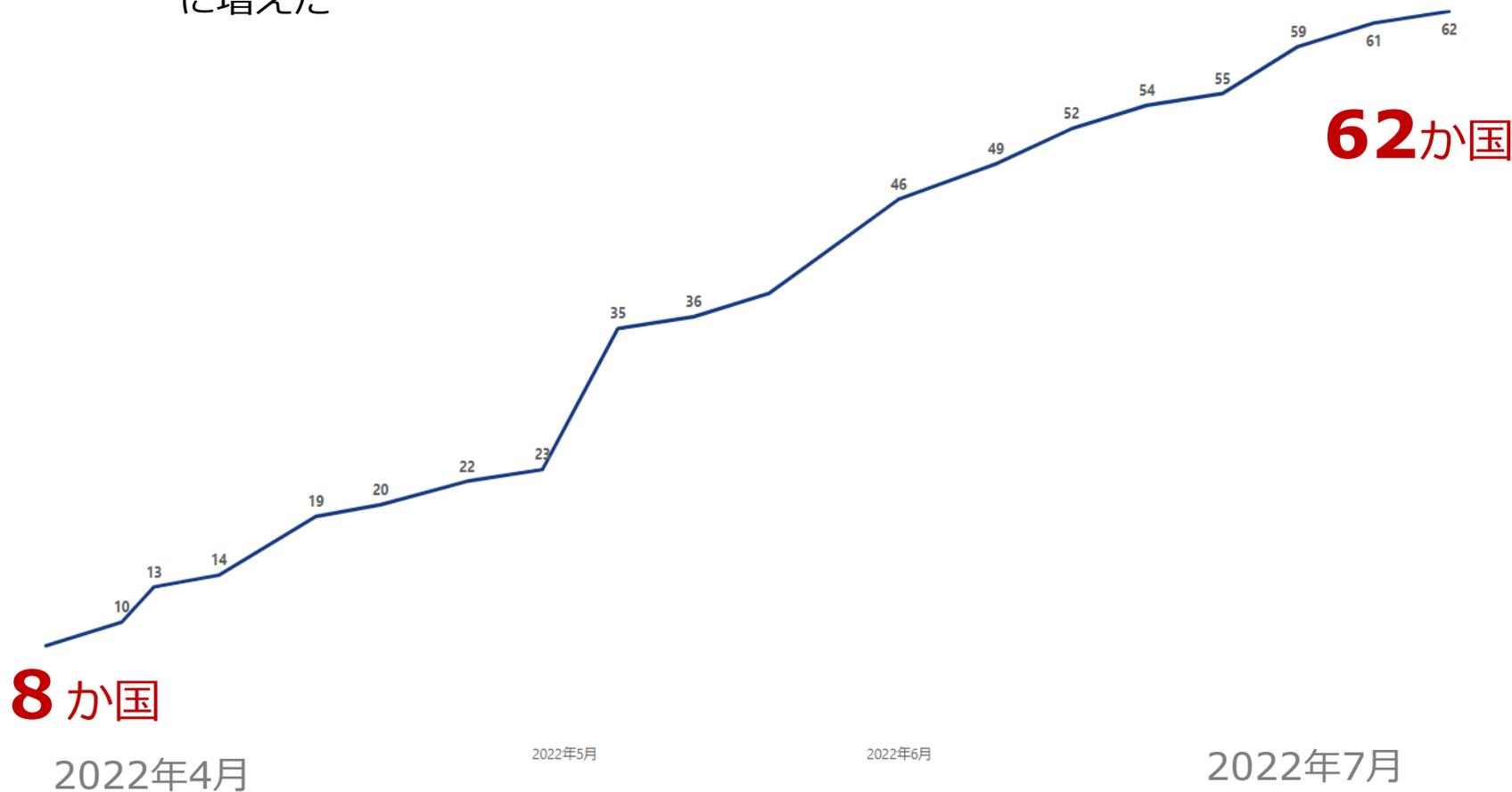




旅行・ホテル 航空旅客 レンタカー

2022年度上期回顧

コロナに係る**入国規制**を全く**設定しない**国の数がこの4か月で飛躍的に増えた





旅行 ホテル 航空旅客 レンタカー

今後の展望・課題 (ブラジル)

展望

国際航空運送協会 (IATA) は、2022年の世界の航空旅客は約38億人、新型コロナウイルス感染拡大前の **8割** の水準まで回復する見通しを発表

課題

- ウクライナ情勢に端を発する世界的な原油高による航空運賃の上昇
- インフレによる物価の上昇 → 旅行先滞在費増加

↓
旅行意欲の減退

来年 2023年
復活！



旅行 ホテル 航空旅客 レンタカー

今後の展望・課題 (日本)

展望

コロナ以前の2019年比較で全面回復はしていない。ブラジルを含め日本人の日本発海外旅行&外国人の訪日旅行の需要回復が遅れている

課題

日本の水際対策

- ❑ 日本到着者数制限は1日当たり20,000人(2022年8月現在)。コロナ前の2019年の1日当たりの入国者数平均は約14万人。
- ❑ 外国人観光客は常時行程管理された添乗員付き団体パッケージツアーでの入国のみ許可される。(2022年8月現在)



- ❑ 日本到着者数制限は1日当たり**50,000人**
- ❑ 外国人観光客は行程管理された**添乗員なし**団体パッケージツアーで入国可能
- ❑ 日本入国時**PCR検査陰性証明提示不要**

**2022年9月7日から
緩和**